ともに励まん



２０１９，２，７（木）
北海道旭川永嶺（えいりょう）高等学校２年次だより　第４２号（通巻 87 号）

「道を譲れる人に」

昨年、東名高速で「あおり運転」の末、搭乗者を引きずり出したところへ後続のトラックに追突され、死亡させてしまった25歳の男の裁判員裁判（１審判決）がニュースになっていましたね。被害者は家族旅行帰りのお父さんとお母さん（ともに死亡）。小学生の姉妹2人が残されました。

また、先月２５日（金）には、昨年7月大阪府堺市で起きた、オートバイの大学生ををあおって追突死させた40歳の元警備員についての裁判員裁判の判決も報じられました。

いずれも痛ましい事故でしたが、「過失」を超えた「自己中心的」な運転行動が世論の批判を浴びていました。

「自己中心」「自己本位」「自分さえ良ければいい」･･･そういう人は増えているのでしょうか？

もう２０年以上も前の勤務校の話。**冬休み明けの集会で、全校生徒に語った校長**の挨拶が忘れられません。

冬休み中、その校長は、出張から学校そばの校長住宅へ帰る坂道の途中で、前を歩く親子連れの会話を耳にしたと言います。小さな子どもが親に、こう言っていた。

「〇〇生（その高校の生徒）って、道をよけないよね」

つまり、雪で狭くなった歩道、人ひとりがやっと通れるほどしか踏み跡のない狭い歩道を〇〇生は、対向して歩いてくる人がいてもよけない、道を譲らない、という子どもの発言だったそうです。むろんすぐ後ろを当の学校の校長が歩いているなんて知る余地もなかったでしょう。よほど普段から、〇〇生は、地元の住民に配慮もなく、大きな顔をして道を歩いているんだ、と校長は気づいたのだと思います。

この小さなエピソードを紹介したあとで、簡潔に一言、こう言って降壇した。

「道を譲れる人になりなさい」

これまで三十数年、これほど心に残る、簡潔で力強いメッセージの校長講話は記憶にありません。ちょっと「感動」に近いものがありました。



当の生徒たちも「道を譲ろう」っていう気持ちになっていたようです。

ちなみにこの元校長は、退職後も２０年近く、請われて札幌のカルチャーセンターで漢文を読む講座の講師を務めておられ、道新の「朝の食卓」というコラムも執筆していらっしゃいました。信頼の厚い方だった証左でしょう。

「道を譲れる人に」

いい言葉だね。雪国育ちのボクらだからこそ、狭い雪道を譲り合って通るような思いやりが育つと信じたい。また、単に歩道をよけるという行為のみならず、人間社会の中で生きていく上で、オレがオレがと人をかき分け押しのけてゆくのではなく、一歩、人のために我が身を引けるような人徳を身につけよ、という含蓄を感じます。ボクなんかはこの校長のような一言は一生かかっても口にすることはできないと思いますが、せめて受け売りにせよ、こうして「又伝え」くらいはしてみようと思いました次第です。はい。

ちなみに「江戸しぐさ」と呼ばれる、江戸時代からの日本人の美徳として伝えられるものを紹介します。ただし、信憑性には諸説あるようですが。（『ウィキペディア（Wikipedia）』より）

肩引き　道を歩いて、人とすれ違うとき左肩を路肩に寄せて歩くこと。

傘かしげ　雨の日に互いの傘を外側に傾け、ぬれないようにすれ違うこと。

「行 不 由 径」

「**行くに径に由らず**（ゆくにこみちによらず）」と読みます。『論語』の一節です。直訳は、歩いて行くのに、小道や近道、裏通りを通らない。奥義としては、公明正大、堂々と正道を歩め、という意味だ。

「**学問に王道なし**」という言葉は知っているかい？ 学問を修めようという人は、手っ取り早く、楽な方法はない、地道にこつこつ進めるよりほかない、という意味です。

大きな志を達成しようと思ったら、簡便安易な方法はない、地道にこつこつ励め。堂々、正しい道を追求せよ、という有難いお言葉を贈ります。

バスの乗車マナー　ふたたび



冬は混でバス　遅れバス

10月、このたよりの28号でも、バスでの「リュックの前抱えマナー」について書いたところですが、先日、一般男性から本校生徒とおぼしき高校生のバッドマナーについて、相当なお怒りの苦情電話をいただいた旨、各クラス担任から注意喚起があったと思います。「こんどあったらバスを止めて警察に突き出す」と、相当強い調子だったとのことです。。

私もときどきそういう便のバスに乗り合わせることがあるので、おそらくは相当混んでいたバスではないかと思うのですが。そういうとき、私なら、「すみません、降ります。ごめんなさい、通して下さい」と声をかけながら降車行動をとります。すると、いくらかでも身をよじるなどして通してくれようとしてもらえるものです。無言で、ぐいぐい押しのけて行こうとすると、「作用反作用」の法則ではありませんが、かえって、むりくり押される力から身を守ろうと身を固くし、反発の力が返ってくるものと思われます。

ですから、第一に本校生ではなかったことを祈りつつ、万が一本校生であったとしても、身動きできないほどのやむを得ない混雑状況下であったと思いたいし、ましてや故意に足を蹴ったなんて考えられないのですが、**「やられた」被害意識を持つ側としてはなんとしても「やられた」意識なのであり、「許せない」**気持ちを学校にぶつけてくるのも、理解できないわけではありません。

朝や帰りのイライラ、疲れているときの通勤通学バス・列車内だからこそ、気持ちにゆとりを、「相身互い（あいみたがい）」、「お互い様」の精神も一緒に持ち合わせて、公共交通機関に乗りたいものです。

なお、最近、電気軌道バスの運賃表示画面に、「**リュックハグ運動**」の画像が映し出されています（道北バスはどうなのかな？）東京並みになってきているんですね？



この話題も以前に書いたが、本来、通路に立つ人は、外の窓に向かって立つのではなく、進行方向に向かって立つように「つり革」が取り付けられているんです。そうしたら、いま流行の背中のリュックが、多少なりとも下車する人の邪魔をすることにはならないんですけれどね（最近のバスには、外向きに立つように付けられたつり革も見かけますが）。

☆☆☆　来週の行事と時間割　☆☆☆

２月		行　事　等 ①②は、１校時２校時をあらわします		★時間割を確認しよう ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
１１	月	建国記念の日								
１２	火	推薦入試のため生徒休業（家庭学習）								
１３	水	スキー(全クラス)	6 時間							
１４	木	２年次集会　　PTA 合同役員会	7 時間							
１５	金	論述模試　　入試関連で短縮日課	2 時間							

４連休！　早めの考査準備を。

（文責　伊丸岡）